

舞鶴市域の歴史研究と成果の博物館展示への 応用に関する調査研究

横内 裕人
上杉 和央

平成 27 年度、地域貢献型特別研究費（ACTR）の事業として「舞鶴市域の歴史研究と成果の博物館展示への応用に関する調査研究」（代表：横内裕人・上杉和央）の調査と研究を実施した。

舞鶴市は、平成 28 年度に郷土資料館の改修を控えており、これまでの市史やその他の歴史研究の成果を資料館展示にどのように活かせるのか、という課題を抱えていた。

このような点を受け、横内・上杉を研究代表者として菱田哲郎・藤本仁文・向井佑介が研究分担者となり、研究協力者として小室智子（舞鶴市教育委員会社会教育課）と奥谷三穂（共同研究員・現 COC + 特任教授）に協力を仰ぎつつ、歴史研究成果の不十分な点を重点的に調査することにした。

1. 古地図調査

今年度は、舞鶴市域に関する古地図のうち、地籍図資料を中心に調査をおこなった。近年、各公民館が各地区の地籍図を所有している場合があることが明らかとなってきたが、それについての調査が十分になされていなかったことによる。古地図資料は歴史的景観を知ることのできる貴重な資料であり、また写真やデジタルデータにすることで展示等への活用をはかることも可能なものである。

そこで、各公民館が所蔵している資料のうち、地区の了解が得られた資料について、本学で一定期間預かり、本学科で所持している A1 フラットベットスキャナーで資料をスキャンしていった。

2. 集落調査

平成 27 年度は和田地区を対象として、生活・生業に関する聞き取り調査を実施した。これは平成 26 年度に調査した内容の補足調査にあたる。舞鶴市域について、近現代の生活・生業といった「普段の暮らし」に関する調査はまだ十分におこなわれていない。神社の祭礼や集落内の組織、生業の変化、さらに軍港設置前後の変化といった点は、現在の舞鶴を理解する上での基本事項となる。

なお、和田地区については地籍図資料が残されている（舞鶴市郷土資料館蔵）。また、平成 26 年度の調査時に、地域住民の方の残した戦前の和田地区を描いた絵画資料が確認されている。このような空間的な資料と、聞き取り調査で得られた内容を合わせることで、豊かな地域

誌を描くことができる。これらの成果は、今後の資料館展示にも活かせるだろう。
なお、調査においては地域の方々に大変お世話になった。記して御礼申し上げたい。

3. 街道調査

舞鶴市域を東西に結ぶ西国三十三所観音霊場の巡礼道（それはまた宮津や小浜への主要街道でもあった）について、街道沿いの石造物や景観についての調査をおこなった。街道調査については、これまでも実施していたが、今回の調査によって、市域の東西すべてを歩くことができ、どのような地域遺産があるのか、明らかにすることができた。



写真1 和田地区での聞き取り風景（平成27年9月22日）



写真2 若狭街道沿いの制札場跡（平成27年9月22日）